

2 野菜

①きゅうり

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
きゅうり	促成	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇									
		—	x									○	◎	×	×	◎	
きゅうり	半促成	◆		(◇)	◇	◇	◇	◇									
		◎	—	x													
きゅうり	抑制																
きゅうり	越冬(短期)	◇	◇														
		—	x														

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
促成栽培	本/10a 1,050~ 1,350	基肥	26	43	26	・追肥は、8~10回に分けて施用する。
		追肥	20	0	20	
		合計	46	43	46	
半促成	900~ 1,200	基肥	23	35	23	・追肥は、5~6回に分けて施用する。
		追肥	15	0	15	
		合計	38	35	38	
抑制	900~ 1,200	基肥	10	16	10	・追肥は、4回に分けて施用する。
		追肥	8	0	8	
		合計	18	16	18	
越冬(短期)	900~ 1,200	基肥	12	20	12	・追肥は、4回に分けて施用する。
		追肥	10	0	10	
		合計	22	20	22	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 稲わら、もみ殻堆肥などの良質な堆肥を3t/10a施用する。
- イ 土づくりと土壌病害虫防除のため、夏期に太陽熱を利用した土壌消毒やたん水処理などを行う。

2 施肥

- ア 基肥は、土壌診断及び堆肥の成分含有量を考慮して、施用量を決定する。
- イ リン酸、カリが過剰の場合は、低リン酸、低カリ肥料を活用する。
- ウ 基肥は有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2~3週間前には施用し、よく土壌と混和しておく。
- エ 栄養診断技術も活用しながら、液肥で1回当たり窒素成分で2kg/10a程度を施用する。
- オ 炭酸ガス施用等技術導入による増収が見込まれる場合、生育状況に応じて追肥量を増やす。

②なす

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
なす	半促成栽培		◎		◇	◇	◇	◇	◇					○	◆	7,000
なす	トンネル 早熟栽培			◆	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇			×	○	8,000
なす	露地栽培	○						◎	×	◇	◇	◇	◇		×	7,000

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 ∩トンネル

【施肥基準】

単位：kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
半促成栽培	本/10a 1,500	基肥	30	30	30	・追肥は、5～6回に分けて施用する。
		追肥	10	0	10	
		合計	40	30	40	
トンネル 早熟栽培	1,000	基肥	30	30	30	・追肥は、6回に分けて施用する。
		追肥	12	0	12	
		合計	42	30	42	
露地栽培	650	基肥	30	30	30	・追肥は、4回に分けて施用する。
		追肥	8	0	8	
		合計	38	30	38	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 秋～冬の間、稲わら、麦わら、あるいは家畜ふんなどの良質な堆肥を2～3t/10a施用する。
- イ 半促成栽培では、夏期に太陽熱を利用した土壌消毒を行い、土づくりと土壌病害虫を回避する。

2 施肥

- ア 基肥は、土壌診断及び堆肥の成分含有量を考慮して、施用量を決定する。
- イ 台木品種により吸肥力が大きく異なるので、トルバム等は基肥施用量を控える。
- ウ 基肥は有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2～3週間前には施用し、よく土壌と混和しておく。
- エ トンネル早熟・露地栽培では、定植後50日程度で収穫が安定したら追肥を開始するが、栄養診断技術も活用し、1回当たり窒素成分で2～4kg/10a程度を施用する。
- オ 炭酸ガス施用等技術導入による増収が見込まれる場合、生育状況に応じて追肥量を増やす(半促成栽培のみ)。

3 その他

- ア 定植期が低温期にあるので、早めにマルチ被覆を行い地温の上昇を図る。
- イ 露地栽培でも、常にかん水できるような環境を整え、降雨時には、表層水を速やかに排水できるようにする。

③トマト・ミニトマト

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
トマト	促成栽培	◇	◇	◇	◇	◇				○	△		◎		15,000	
		×—×														
トマト	長期越冬栽培 (養液土耕)	(全期間、かん水と併せて追肥を実施)												30,000		
		×														
ミニトマト	長期越冬栽培	◇	◇	◇◇	◇	◇	◇		◆	◎				◇◇	◇	10,000
		×														

凡例:○播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位:kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
トマト 促成栽培	本/10a 1,800 ~2,000	基肥	15	25	15	・追肥は、5~6回に分けて施用する。
		追肥	15	5	15	
		合計	30	30	30	
トマト 長期越冬栽培 (養液土耕)	2,200~ 2,800	基肥	0	0	0	・基肥を施用しない。 ・追肥は、液肥混入機と点滴チューブを用いて、 毎回のかん水と併せて行う。
		追肥	60	40	120	
		合計	60	40	120	
ミニトマト 長期越冬栽培	2,100~ 2,300	基肥	30	30	30	・追肥は、11月から計10回に分けて施用する。
		追肥	20	10	20	
		合計	50	40	50	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 稲わら、もみ殻堆肥などの良質な堆肥を3t/10a施用する。

イ 土づくりと土壌病害虫防除のため、夏期に太陽熱を利用した土壌消毒やたん水処理などを行う。

2 施肥

ア 基肥は、土壌診断及び堆肥の成分含有量を考慮して、施用量を決定する。

イ リン酸、カリが過剰の場合は、低リン酸、低カリ肥料を活用する。

ウ 基肥は有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2~3週間前には施用し、よく土壌と混和しておく。

エ 栄養診断技術も活用しながら、液肥で1回当たり窒素成分で2kg/10a程度を施用する。

(養液土耕では収量に応じた施肥を行う。生育とかん水量に合わせて施肥量を調整する。)

オ 炭酸ガス施用等技術導入による増収が見込まれる場合、生育状況に応じて追肥量を増やす。

④いちご

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
いちご	促成			親株 ◎					△						4,000
		◇	◇	◇	◇				◆	◎		×			
						×				◆	◎			×	

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
促成	本/10a	基肥	15	20	15	・追肥は、5～6回に分けて施用する。
	7,000	追肥	5	5	5	
	～7,600	合計	20	25	20	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 稲わら、もみ殻堆肥などの良質な堆肥を3t/10a施用する。
- イ 土づくりと土壌病害虫防除のため、夏期に太陽熱を利用した土壌消毒やたん水処理などを行う。

2 施肥

- ア 基肥は、土壌診断及び堆肥の成分含有量を考慮して、施用量を決定する。
- イ リン酸、カリが過剰の場合は、低リン酸、低カリ肥料を活用する。
- ウ 基肥は有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2～3週間前には施用し、よく土壌と混和し高うねとする。
- エ 保温開始時期に追肥を開始する。栄養診断技術も活用して、液肥により1回当たり窒素成分量で1kg/10a程度を施用する。
- オ 連続畦栽培では、基肥量を約3～4割程度削減し、合計で15kg/10aとする。
- カ 炭酸ガス施用等技術導入による増収が見込まれる場合、生育状況に応じて追肥量を増やす。

⑤にがうり

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
にがうり	露地				○	◆	◎	×		◇	◇		×			3,600

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
露地	本/10a 660	基肥	20	20	20	・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	5	5	5	
		合計	25	25	25	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 稲わら、もみ殻堆肥などの良質な堆肥を3t/10a施用する。

2 施肥

ア 基肥は、土壌診断及び堆肥の成分含有量を考慮して、施用量を決定する。

イ 基肥は有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2~3週間前には施用し、よく土壌と混和しておく。

ウ 基肥量が多いと草勢が旺盛になり、雌花着性に悪影響を及ぼす。

オ 追肥は、肥切れとならないよう、収穫始めごろから数回に分けて行い、草勢の維持を図る。

⑥えだまめ

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
えだまめ	ハウス早熟		◆	○-◎	—	—	—	×	×							1,500
えだまめ	トンネル早熟			◆	∩	∩	○-◎	—	—	×	×					1,300
えだまめ	露地				◆	○	—	—	—	×	×					1,500

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 ∩トンネル

【施肥基準】

単位：kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
ハウス早熟	本/10a 24,000	基肥	8	12	12	・施肥量が不足した場合
		(追肥)	(1)	(0)	(0)	
		合計	8	12	12	
トンネル早熟	20,000	基肥	8	12	12	・施肥量が不足した場合
		(追肥)	(1)	(0)	(0)	
		合計	8	12	12	
露地	22,000	基肥	10	12	12	・施肥量が不足した場合
		(追肥)	(1)	(0)	(0)	
		合計	10	12	12	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質な堆肥を1t/10a施用する。
 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。

2 施肥

- ア 多肥では過繁茂となりやすいため、前作の残存肥料を考慮する。
 イ 全量基肥を基本とし、草勢を見ながら追肥が必要な場合は窒素成分で1~2kg/10a程度施用する。
 ウ マルチ栽培では、各成分とも1~2割程度減肥する。

⑦さやいんげん

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
さやいんげん	露地抑制						◆	○		◇	◇	◇					1,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
露地抑制	本/10a 2,800	基肥	16	22	16	・追肥は、3回前後に分けて施用する。
		追肥	4	0	4	
		合計	20	22	20	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 良質な堆肥を2～3t/10a施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。

イ 比較的浅根で、乾湿に弱いため、有機質の投入等による十分な土づくりを行う。

ウ 連作による収量・品質の低下を防ぐため、マメ科作物の連作を避け、3～4年の輪作を行う。

2 施肥

ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2週間前までに施用する。

イ 定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

ウ 追肥は着きょう期以降に2～3回に分けて、2～3週間おきに施用する。

⑧スイートコーン

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
スイートコーン	トンネル早熟			◆ ○-◎ ∩	∩	◇	×	×							1,200
スイートコーン	普通			◆ ○-◎	○-◎	◇	×	×							1,300

凡例:○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 ∩トンネル

【施肥基準】

単位:kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
トンネル早熟	本/10a 4,800	基肥	22	20	25	
		追肥	0	0	0	
		合計	22	20	25	
普通	4,000	基肥	20	18	18	
		追肥	0	0	0	
		合計	20	18	18	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 良質な堆肥を2~3t/10a施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。

イ 地力のある保水性の高いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

2 施肥

ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2週間前までに施用する。

イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

ウ 吸肥力が強いいため十分な肥効を保つ。

⑨ねぎ

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
ねぎ	秋冬どり			○	○	◎	◎	◆	◆		◆	◆	◆	◆	4,000
				x							x				
ねぎ	春どり		◆		○		○	◎		◆	◆	◆	◆	4,000	
				x			x								
ねぎ	夏どり	○◎	◆	◆	◆	◆	◆	x			○			3,200	
					◎					x					

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 x-x収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位：kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
秋冬どり	本/10a 33,000 ~40,000	基肥	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・水田等地力窒素が少ない場合は基肥の施用を検討する。 ・追肥は、6回に分けて施用する。 ・最初の追肥は減肥をする。
		追肥	18	18	18	
		合計	18	18	18	
春どり	33,000 ~40,000	基肥	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・基肥は施用しない。 ・追肥は、5~6回に分けて施用する。
		追肥	18	18	18	
		合計	18	18	18	
夏どり	33,000 ~40,000	基肥	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・基肥は施用しない。 ・追肥は、生育に合わせ5~6回に分けて施用する。
		追肥	14	14	14	
		合計	14	14	14	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 良質な堆肥を1~2t/10a施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。

イ 排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

ウ 多雨時や高温乾燥時の対策としてリビングマルチの導入が有効である。

2 施肥

ア 基肥は、有機質肥料をまたは緩効性肥料を主体として、定植の2週間前までに施用する。

イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

ウ 高温多湿期の多肥栽培は根への影響が大きく軟腐病、白絹病の多発につながるので注意する。

⑩たまねぎ

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
たまねぎ	マルチ 秋まき														6,000
						x	x			○	○	◆	◎		

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
マルチ 秋まき	本/10a 24,000	基肥	20	28	20	
		追肥	0	0	0	
		合計	20	28	20	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質な堆肥を2～3t/10a施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。
- イ 酸性土壌では、燐酸の肥効が劣るので注意する。
- ウ 球の肥大には適度な土壌水分が必要なため、適湿を保てる土づくりを行う。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2週間前までに施用する。
- イ 定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

⑪ほうれんそう

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
ほうれんそう	春まき		◆	○	—	x								1,250	
ほうれんそう	夏まき 雨よけ					◆	○	—	x	x				1,000	
ほうれんそう	秋まき	—	x							◆	○	—	x	1,800	
ほうれんそう	トンネル 冬まき	∩	∩	∩	○	—	x	x					◆	∩	1,600

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥 ∩トンネル

【施肥基準】

単位：kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
春まき	5~6	基肥	11	12	11	
		追肥	0	0	0	
		合計	11	12	11	
夏まき 雨よけ	5~6	基肥	8	8	8	
		追肥	0	0	0	
		合計	8	8	8	
秋まき	8	基肥	20	22	18	
		追肥	0	0	0	
		合計	20	22	18	
トンネル 冬まき	7~8	基肥	18	21	18	
		追肥	0	0	0	
		合計	18	21	18	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 良質な堆肥を2~3t/10a施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。

イ 多肥では過繁茂となりやすいため、前作の残存肥料を考慮する。

2 施肥

ア 全量基肥とし、草勢を見ながら必要な場合は窒素成分で1~2kg/10a程度施用する。

イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

ウ マルチ栽培では、各成分とも1~2割程度減肥する。

⑫こまつな

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
こまつな	ハウス 春まき		◆ ○		x x		○	x x							1,200 ~ 1,800
こまつな	ハウス 夏まき					◆	○	x x							
こまつな	ハウス 秋まき									◆	○	x x			
こまつな	ハウス 冬まき												◆	○	

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 x-x収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
ハウス 春まき	10a 1~2	基肥	12	12	12	・1作の施肥量
		追肥	0	0	0	
		合計	12	12	12	
ハウス 夏まき	10a 1~2	基肥	8	8	8	・1作の施肥量
		追肥	0	0	0	
		合計	8	8	8	
ハウス 秋まき	10a 1~2	基肥	12	12	12	・1作の施肥量
		追肥	0	0	0	
		合計	12	12	12	
ハウス 冬まき	10a 1~2	基肥	12	12	12	・1作の施肥量
		追肥	0	0	0	
		合計	12	12	12	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 良質な堆肥を2~3t/10a施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。

イ 酸性には比較的強いが、pH(H₂O)5以下にはならないように注意する。

2 施肥

ア 全量基肥として施用する。

イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

ウ 連作や生育期間の短い夏播きでは3~5割程度減肥する。

エ リン酸の吸収が良いので、連作ではリン酸の減肥を検討する。

⑬さんとうさい

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
さんとうさい	秋まき									◆	◇◇					8,000
										○◎	—	—			××	

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
秋まき	本/10a 3,000	基肥	25	25	25	・追肥は2回に分けて施用する。
		追肥	10	0	5	
		合計	35	25	30	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質な堆肥を2～3t/10a施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。
- イ 根域が深くなるよう、排水性が良く膨軟で肥沃な土壌を作るために十分な土づくりが必要。

2 施肥

- ア 肥料の吸収は、窒素やカリは多く、リン酸は比較的少ない。石灰の吸収は多く苦土は少ない。
- イ 生育初期の30日間は養分吸収量が少ないが、結球開始期から急速に増加する。
- ウ 結球開始期以降の養分吸収に備えて、追肥を行う。

⑭はくさい

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
はくさい	秋まき									◆	◇	◇				
		×								○	◎			×		
																6,000

凡例:○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位:kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
秋まき	本/10a 3,500	基肥	20	20	20	・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	8	0	5	
		合計	28	20	25	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 良質な堆肥を2~3t/10a施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。

イ 根域が深くなるよう、排水性が良く膨軟で肥沃な土壌を作るために十分な土づくりが必要。

2 施肥

ア 窒素の過剰は生育が軟弱となり病害の発生を助長する。しかし不足は収量減に繋がるので注意する。

イ 生育初期の30日間は養分吸収量が少ないが、結球開始期から急速に増加する。

ウ 平均気温13℃以下になると花芽分化が始まり葉数が増加しないため、10月下旬までには追肥を終了させる。

⑮キャベツ

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12						
キャベツ	秋冬どり								○	◆	◇	◇					×	×	5,500
キャベツ	冬どり																	×	6,000
キャベツ	初夏どり		◇	◇															4,000

凡例:○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位:kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
秋冬どり	4,000	基肥	15	18	15	・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	5	0	5	
		合計	20	18	20	
冬どり	4,000	基肥	20	20	15	・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	5	0	5	
		合計	25	20	20	
初夏どり	4,200	基肥	15	20	15	・追肥は、2～3回に分けて施用する。
		追肥	11	0	8	
		合計	26	20	23	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質な堆肥を2～3t/10a施用する。
- イ 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。
- イ 根の酸素要求量が高いので有機質の投入や深耕により土壌の通気性を高める。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2週間前までに施用する。
- イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。
- ウ 養分吸収は、窒素は外葉と結球葉に、石灰は外葉に多い。窒素、カリ、石灰は生育後半に吸収量が増加する。

⑩しゅんぎく

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12						
しゅんぎく	ハウス秋まき	◇	◇	◇										◆					3,600
											○	◎	×						

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位：kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
ハウス 秋まき	本/10a 38,000	基肥	14	20	14	・基肥は、有機質または緩効性肥料主体とする。 ・追肥は、2～3回に分けて施用する。 ・追肥は、灌水を兼ねて液肥で施用する。
		(追肥)	(6)	(0)	(6)	
		合計	14	20	14	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質な堆肥を2～3t/10a施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。
- イ 排水性が良く、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

2 施肥

- ア 苗は活着するまで多肥には弱いので、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2週間前までに施用する。
- イ 施肥は基肥を中心に、追肥は株の状況を見て、2～3回に分けてかん水を兼ねて施用する。

⑰レタス

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)						
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12							
レタス	ハウス秋まき														○	◆	◎	×	×	3,000
レタス	夏まき 秋どり														○	◆	◎	×	×	3,500

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
ハウス 秋まき	本/10a 6,500	基肥	25	25	23	
		追肥	0	0	0	
		合計	25	25	23	
夏まき 秋どり	6,500	基肥	20	18	20	
		追肥	0	0	0	
		合計	20	18	20	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 良質な堆肥を2~3t/10a施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。

イ 排水性が良く、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

2 施肥

ア 苗は活着するまで多肥には弱いので、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2週間前までに施用する。

イ 秋まきハウス栽培では、きゅうりの後等前作の残肥がかなりある場合は減肥する。

⑱カリフラワー

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
カリフラワー	夏まき 秋冬どり	×						○	○	◆	◇						2,400

凡例:○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位:kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
夏まき 秋冬どり	本/10a 3,500	基肥	15	24	15	・基肥は、緩効性肥料を施用する。 ・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	8	0	8	
		合計	23	24	23	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質な堆肥を2～3t/10a施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。
- イ 排水性が良く、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2週間前までに施用する。
- イ 定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

⑱ ブロッコリー

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ブロッコリー	トンネル 早春まき	○	◆ ∩ ◎		∩ ×	×								1,200
ブロッコリー	夏まき 秋冬どり				×			○	◆ ◎	◇	◇	×		1,200

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 ∩トンネル

【施肥基準】

単位：kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
トンネル 早春まき	本/10a 3,500 ~4,000	基肥	16	20	16	・基肥は、緩効性肥料を施用する。
		追肥	0	0	0	
		合計	16	20	16	
夏まき 秋冬どり	3,000	基肥	10	14	10	・基肥は、緩効性肥料を施用する。 ・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	4	0	4	
		合計	14	14	14	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 良質な堆肥を2~3t/10a施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。

イ 排水性が良く、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

2 施肥

ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2週間前までに施用する。

イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

②0 たいさい

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
たいさい	秋まき露地									◆	○	◇	×	×	4,000

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位：kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
秋まき露地	株/10a 0.2~0.3	基肥	20	20	20	・追肥は、播種後30日頃、生育状況に応じ実施。
		(追肥)	(3)	(1)	(3)	
		合計	20	20	20	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質な堆肥を2~3t/10a施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。
- イ 排水性が良く、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2週間前までに施用する。
- イ 施肥は基肥を中心に、追肥は株の状況を見て施用する。

②1のらぼうな

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
のらぼうな	露地		◇	◇					◆	○	◎				2,000
			×		×										

凡例:○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
露地	20	基肥	6	6	6	・基肥は、緩効性肥料を施用する。 ・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	6	4	6	
		合計	12	10	12	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質な堆肥を2～3t/10a施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。
- イ 排水性が良く、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2週間前までに施用する。
- イ 土づくりと基肥施用により、厳寒期に入る前に十分な生育を確保する。
- ウ 追肥は収穫始め及び3月中旬の分枝促進時期に行う。

②だいこん

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
だいこん	トンネル 冬春まき	◆ ○	○	○	○	×	×							5,000 ~ 6,000
だいこん	夏まき								◆	○	×	×		6,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 ◯トンネル

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
トンネル 冬春まき	本/10a 5,500	基肥	10	10	10	・全量基肥施肥 ・主根への障害に注意する。
		追肥	0	0	0	
		合計	10	10	10	
夏まき	5,000	基肥	10	16	10	・マルチ栽培では、全量基肥施肥 ・主根への障害に注意する。
		追肥	0	0	0	
		合計	10	16	10	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 良質な堆肥を2~3t/10a施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。

イ 未熟な有機物のすき込みは根の伸長を妨げることがあるので注意する。特に青刈り作物を作付けした後作は岐根が発生しやすいので注意する。

ウ 根域が深くなるよう、排水性が良く膨軟で肥沃な土壌を作るため十分な土づくりが必要。

2 施肥

ア マルチ栽培では全量基肥とする。

3 その他

ア 連作により土壌病害が発生しやすいため輪作を行う。

イ 土壌分析の結果に基づき、改良資材を施用しpH(H₂O)6前後に調整する。

②3かぶ

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
かぶ	春まき		◆	○	—	x x									3,200
かぶ	夏まき					◆	○	—	x	○	—	x			3,500
かぶ	トンネル 冬まき			x	—	x						◆	○		3,000

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥 ∩トンネル

【施肥基準】

単位：kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
春まき	本/10a 37,000	基肥	15	15	15	・全量基肥とする。
		追肥	0	0	0	
		合計	15	15	15	
夏まき	37,000	基肥	10	10	10	・全量基肥とする。 ・生育期間が短いので窒素の多肥に注意する。
		追肥	0	0	0	
		合計	10	10	10	
トンネル 冬まき	37,000	基肥	12	15	12	・全量基肥とする。
		追肥	0	0	0	
		合計	12	15	12	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 良質な堆肥を2～3t/10a施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。

イ 排水性が良く膨軟で肥沃な土壌を作るため十分な土づくりが必要。

2 施肥

ア リン酸、カリ、石灰の吸収量が比較的多い。リン酸の効果は明確でないがカリが不足すると生育が劣る。

3 その他

ア 土壌酸度の適応性は広いが、pH(H₂O)5.5～6.5に調整する。

イ 単位面積当たりの養分吸収量は他の根菜類と比べ比較的少ない。

②4にんじん

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
にんじん	夏まき							◆ ○	—	◇	—	×	—	×	3,500
にんじん	トンネル 冬まき	○ ○	—		○	—	×	×					◆ ○	3,500	

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥 ○トンネル

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
夏まき	本/10a 37,000	基肥	14	16	11	・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	5	5	5	
		合計	19	21	16	
トンネル冬まき	30,000	基肥	20	20	20	・全量基肥施肥する。
		追肥	0	0	0	
		合計	20	20	20	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質な堆肥を2~3t/10a施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。
- イ 有機質の投入や深耕により土壌の通気性を高める。

2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2週間前までに施用する。
- イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

㊦さつまいも

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
さつまいも	マルチ栽培		(育苗)	◎	—	—									2,500
			種芋 伏せ込み	◆	◎	—	—	—	—	×	×				

凡例:◎播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位:kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
マルチ栽培	本/10a 3,000	基肥	2	7	20	・全量基肥施用する。窒素過多に注意。
		追肥	0	0	0	
		合計	2	7	20	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 野菜後のような肥沃地では、良質な生産物ができないので計画的な輪作を行う。
- イ 品種に適したほ場の選定や肥沃度に合わせ栽植密度を決定する。

2 施肥

- ア 施肥は全量基肥とし、窒素過多に注意する。

3 その他

- ア 連作地では、つる割病、立枯病の発生が増加するため土壌消毒を実施する。

②6 さといも

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
さといも	露地栽培			◆ ◎			◇										3,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
露地栽培	本/10a 1,700 ~1,800	基肥	10	24	6	・基肥の施肥量は控えめにする。 ・初期生育の過繁茂は、いもの分球肥大に悪影響を及ぼすので注意する。
		追肥	10	12	12	
		合計	20	36	18	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 良質な堆肥を2~3t/10a施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。

イ 根が十分張れるよう、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

ウ 未熟な堆肥の施用や深耕後植え付けまでに日数がないと、土壌が乾燥して出芽や初期生育に悪影響を及ぼすので注意する。

2 施肥

ア 子いも肥大最盛期に肥切れしないよう6月下旬に追肥を行う。速効性肥料の多肥は濃度障害の発生が懸念されるので注意する。

②7 やまといも

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
やまといも	露地栽培					◎	◇	◇							
				×									×		

凡例:◎播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位:kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
露地栽培	本/10a 5,900	基肥	0	0	0	・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	17	17	19	
		合計	17	17	19	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質な堆肥を2~3t/10a施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。
- イ 根域が深くなるよう、排水性が良く膨軟で肥沃な土壌を作るため十分な土づくりが必要。

2 施肥

- ア 基肥を施用する場合は、有機質肥料または緩効性肥料を主体に施用する。

3 その他

- ア 連作を行うと褐色腐敗病や根腐腐敗病の発生が多くなるため土壌消毒を行う。

②⑧葉しょうが

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
葉しょうが	露地早熟			∩ ◎	∩ ◎	∩	◇	◇	◇							2,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 ∩トンネル

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
露地早熟	kg/10a 1,500 ~1,800	基肥	0	0	0	・基肥は、施用しない。 ・追肥は、3回に分けて施用する。
		追肥	16	16	16	
		合計	16	16	16	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

- ア 良質な堆肥を2~3t/10a施用する。
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を決定する。
- イ 植え付けほ場は、無病で十分な土づくりを行ったほ場とする。

2 施肥

- ア 高度化成の多施用は肥料やけ等障害の発生が懸念されるので注意する。

3 その他

- ア 連作を行うと根茎腐敗病等の発生が増加するため土壌消毒を行う。

②9 くわい

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)				
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					
くわい	普通栽培						◆	◎	◎	◇	◇							1,300

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位：kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
普通栽培	株/10a 4,800	基肥	25	30	25	・基肥は、代かき前に施用する。 ・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	13	0	13	
		合計	38	30	38	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 良質な堆肥を2～3t/10a施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、十分な期間をあけるとともに、有効成分等を考慮して施用量を決定する。

イ 栽培期間中の用水を確保するとともに、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

2 施肥

ア 基肥は、代かき前に施用する。リン酸質肥料は必ず基肥に全量を施用しておく。

イ 追肥は、葉かき前に2回に分けて施用する。

第1回目は株の養成及びほふく茎の伸長、第2回目は塊茎の肥大充実を目的に施用する。

30 うど

【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
うど	根株養成 ・軟化栽培	(根株養成)			◆	◎	◇	◇							2,000
		x			◎	◎							1,200		
		x	◎	x	◎	x	◎	x	(軟化栽培)						

凡例:◎播種 △仮植 ◎定植 x-x収穫 ◆基肥 ◇追肥

【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥の留意点
根株養成 ・軟化栽培	株/10a 2,000	基肥	12	24	20	・基肥は、緩効性肥料を施用する。 ・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	4	8	12	
		合計	16	32	32	

【土壌・施肥管理】

1 土づくり

ア 良質な堆肥を2～3t/10a施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、十分な期間をあけるとともに、有効成分等を考慮して施用量を決定する。

イ 湿害の発生は減収につながる。排水性の良い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

ウ 連作は病害虫の多発が懸念されるので計画的な輪作体系を組む。

2 施肥

ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2週間前までに施用する。

イ 窒素過多は茎葉の過繁茂を招き、根株の充実を悪くし、休眠打破の障害となるので注意する。

ウ 追肥は生育状況を見ながら7月中旬までに終了させる。8月に入ってから追肥は、生育後半に肥料が効いて、根株の充実が悪く、休眠打破の障害になるので避ける。